

イングランド、ウェールズ、北アイルランド

サラ・ヘインズ chair@asli.org.uk

WASLI カントリーレポート

国名：イングランド、ウェールズ、北アイルランド

協会名：手話通訳者協会、ASLI

イングランド、ウェールズ、北アイルランドの総人口はおよそ 5,500 万人である。(スコットランドの人口も加えるとイギリスとしての人口は 6,000 万人を超えます) 正確なろう者の数はわからないが、5 万~7 万人の BSL を使用するろう者がいると言われている。

ろう者社会の現状

イギリス手話 (BSL) は在来イギリス言語として政府より認められているが、いまだに法的保護はない。つまり、ろう者へのサービス、教育、雇用のための支援は、障害者法制または「平等」法制によって行われている。最も新しいものは 2010 年から施行されている平等法である。
http://www.equalities.gov.uk/wquality_act_2010.aspx 人権関連の法律により差別はとがめられる。

イギリスのろう者は比較的サービスを受けやすく、あらゆるレベルでの職業につくことも可能であるが、ほとんどは地位の低い仕事である。職場における全ての障害者に対して、イギリス政府は“職業へのアクセス (Access to Work)”と呼ばれる資金援助を提供している。それによってろう者は通訳支援を受けることができる。この支援は無制限ではないが、ろう申請者は個々に評価を受け、職務上の通訳サービスのための予算を割り振られる。

ほとんどのろう児は学校でメインストリーム教育を受けている。手話による支援がつくこともあるが、多くの場合は口話法またはいくつかの支援方法を併用して行われている。国内にろう学校はわずかしかないが、多くは過去数十年の間に閉校となっている。これはメインストリーム方針校にできるだけ多人数の児童をインクルージョンさせようとする政府施策によるものである。このようにまだ存在しているろう学校も多く閉校の危機にさらされている。

現在、多くの子どもたちは人工内耳を装用し、またより幼いろう児の大多数は人工内耳を装用している。

手話はメディアにおいて目立ちやすいものであるが、BSLによる視覚的な通訳はほんのわずかなテレビ番組でしかつけていない。社会的には手話は人気がある。何十万もの聴者が初級程度の手話を学んできているが、ろう者の立場ではいまだに支援を得ることについてはバリアが多い。

BDA(イギリスろう協会 <http://bda.org.uk/>) という全国ろう者協会がある。この協会は今年組織を改編し、現在の重点的取り組みは BSL を使用したサービスの利用を向上する呼びかけと、BSL をイギリスの法律に認知されるための準備である。

手話通訳の現状

イギリスでは通訳利用者のための保障措置として手話通訳者の登録システムがある。登録には、通訳者は保険に入り、過去に犯罪歴がないかを調べる犯罪記録局のチェックを受けることが求められる。通訳者を含む、ろう者及び盲ろう者と共に働く全ての言語支援専門家は、現在、ろう者及び盲ろう者との全国コミュニケーション専門家登録協会 (NRCPD) www.nrcpd.org.uk に登録することができる。通訳者はこの登録に際して、他の音声言語の習熟レベルと同等であると見なされる、全国言語センター (CILT) 全国職務基準に達していることが求められる。これは現在ではイギリス手話のレベル6と、イギリス手話と英語間通訳のレベル4とされている。

(http://www.cilt.org.uk/home/standards_and_qualifications/uk_occupational_standards/interpreting.aspx)

多くの通訳者は大学での学習を通してこれらのレベルに到達している。現在では学部課程が設けられており、そこで通訳研修の一部を受けることが可能で、これは修士レベルの資格認定の一部を満たしている。適正な能力水準の保証証明を備えた職業専門コースを経て資格を習得する通訳者が増えている。これらの研修経験により、各自の言語能力に応じて、研修員補佐 (Junior Trainee)、または研修員通訳者 (Trainee Interpreter) として研修コース別に登録されている。登録により通訳の仕事をするが、プロとしての完全な地位を得るまで研修を続ける。

現状はプロ通訳者、研修員、研修員補佐の合計で約 1000 人の通訳者がいる。現在の 2 つの研修員レベルを 1 つの“研修”レベルに置き換えるための支援状況の確認を協議中である。この登録は、通訳者として活動するための法的要件ではない。そのため、コミュニティ内や教育現場で活動している登録をしていない通訳者の数はわからない。

この登録は、会員同士の協会が支援も提供している手話通訳者協会（ASLI）www.asli.org.uk とは別のものである。ASLI は通訳者に対してネット討論会や地域内会合の機会等の支援ネットワークを提供している。ここには、あらゆるレベルの通訳者に対して、研修を受けた指導者を付けるという指導教育計画の広がりがある。そして全国組織と政府（そしてはるか遠くの WASLI）とともに必要な代表者の役割を担っている。ASLI はまた、2 年ごとに会議を開催している。2012 年は ASLI の 25 周年記念である。

最近の通訳部門の発展状況

最近では資格を持った熟練の通訳者に対して、研修と向上についてより重要視されている傾向がある。ASLI によって設立された CPD（継続的専門性向上）計画は、専門家としての向上に大いに携わっている全ての通訳者に対して奨励されているが、その会員は年内に CPD 取り組み記録の提出を求められている。この計画は私たちの目的である“通訳者と専門職の向上”に合致している。

最近の別の展開としては、パソコンやテレビ電話を使用する遠隔ビデオリレー通訳への関心の高まりがある。これはろう者がテレビ電話を使って通訳を通すことが可能である。通訳サービスを使用できるこのシステムを用いている特に専門家のろう者の数は、少ないけれども増加している。このシステムに対する全国的な整備は整っていないが、数年の内に爆発的に増加すると予測している。

ろう通訳者の登録

近年の大きな進歩のひとつとしては、ろう通訳者の登録機会の広がりがある。最初に 2010 年 9 月から 2 つの手話間の通訳技能が十分であるろう通訳者を登録できるようになった。その後引き続き、書き言葉と手話間のろう通訳者と、言語修正にかかわる人にも登録が広がるだろう。これはイギリスの通訳専門家にとってうれしい展開であった。ASLI はろう通訳者を支援し続け、専門的団体の

メンバーとして多くのろう者との関係を積極的につなげて行きたいと考えている。

経済的影響

昨今は財政削減や緊縮政策が各国で影響を及ぼしており、これはイギリスも例外ではない。イングランド、ウェールズ、北アイルランドで活動する通訳者のほとんどは自営業である。(ASLIによる2011年の謝礼金、給与調査では77%のASLI会員はフリーランスであると報告されている。<http://www.asli.org.uk/fees-salaries-report-p122.aspx>) また、多くの通訳者は将来の収入に不安を抱いている。経費削減が強まると、養成を受け、資格を持つ通訳者は脇へ追いやられ、通訳養成が十分ではない人たちとより安く契約するという懸念がある。さらに、ろう者学コースを閉じる大学が出てきている。最も影響が大きいのは、多くの優秀な通訳者が養成を受けてきたブリストル大学のろう者学課程の終了である。イギリスでの通訳という職業は高い地位的レベルを維持しており、これはろうコミュニティからの期待度に反映されている。社会のあらゆるレベルにあるろう者にサービスを高品質で享受できることを保証している労力の多い仕事が、経費削減によって危機にさらされる恐れがある。ASLIは、多くの場合、通訳者を依頼者に派遣している代理店と共に活動している。そのことによって代理店が通訳の高品質を維持することを確保するよう務めさせる目的がある。

